鳥獣センター通信

発行元 鳥獣被害対策支援センター ☎0985(44)1816

2025
特別号
Vol.53.5

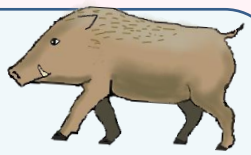
“豚熱”ウイルス拡散防止に御協力を！！

豚熱とは？

現在、野生イノシシによる豚熱という病気が広がっています。県内では、今年の4月に1例目が確認され、11月13日時点で、30例目が確認されました。

この豚熱は、人間に感染することはありませんが、農場の豚に感染してしまうと養豚業に大きな被害を与えてしまいます。

豚熱の特徴



- ●原因：豚熱ウイルス
- ●感染動物：豚、イノシシ
- ●症状：
  発熱、食欲不振、歩行困難、下痢血便、結膜炎、紫斑
- ●潜伏期間：約2～6日（30日の例もある）
- ●ウイルスがいる場所：
  感染したイノシシは、唾液、涙、尿、糞便中にウイルスを排出し、環境中（土壌・植物等）を汚染する。

豚熱が拡大してしまう主な原因 ➡ 野生イノシシの移動、野生イノシシ同士の接触、人や物による長距離移動

感染拡大を防ぐには？

豚熱ウイルスの拡散を防止するために、以下のことに注意しましょう！

▼畜舎等に近づかないようにしましょう。

養豚農場にウイルスを持ち込まないために、豚が飼育されている施設に近づかないようにしましょう。

▼残飯ゴミは放置しないようにしましょう。

イノシシは、雑食性で基本的には何でも食べます。イノシシを誘引しないように食品ゴミはきちんと処理しましょう。

▼登山道や自然歩道を歩きましょう。

登山やキャンプで山林に入る場合は、登山道や自然歩道以外には、立ち入らないようにしましょう。

▼狩猟の際は、こまめに洗浄、消毒を行いましょう。

狩猟後に、山から移動する際は、猟具や車両・手指・靴等の洗浄、消毒を行いましょう。帰宅後も念入りに洗浄した後、消毒し、次の猟場にウイルスを持ち込まないようにしましょう。

▼靴の泥は山で落としましょう。

ウイルスは土にも含まれています。山に入って作業した後は、靴の泥をしっかり落として、ウイルスを山林から持ち帰らないようにしましょう。

▼豚熱感染が確認された地域は、特に注意しましょう。

県内では、現在、都城市及び高原町で豚熱感染が確認されています。感染が確認された地域では、経口ワクチンの散布など感染の拡大防止に努めているところです。（詳細については、県ＨＰ参照）

野生イノシシは、警戒心が強いため、経口ワクチンの散布箇所には近寄らないようにしましょう。

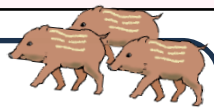
▼養豚農場周辺の環境を整備しましょう。

農場が山や畑に囲まれている場合、野生イノシシとの接触リスクが高くなります。リスクを少しでも軽減するために、イノシシの潜み場を作らないことが重要です。周辺の草刈りや竹林整備を行い、緩衝帯を設けましょう。また、放任果樹や廃棄農作物は適切に処理しておきましょう。

死亡個体を見つけたら・・・？

もし、死亡個体を見つけたら、触ったり、近づいたりせず、最寄りの西臼杵支庁・各農林振興局もしくは市町村へ御連絡ください。

豆知識



イノシシの生態

- 雑食性　・昼夜問わず活動
- 半日以上の休息　・１ｍ以上跳べる
- 基本的に臆病だが、慣れると大胆
- くぐり抜け得意　・鼻先が敏感